令和8(2026)年度　十勝農試 定期作況報告　大豆

月	作況	事由
6月20日	平年並	播種期は平年より1日早く、出芽期は平年より2日早い5月29日であった。出芽後の気温は平年並から高く経過し、主茎長および主茎節数は平年並である。 以上のことから、現在の作況は平年並である。
7月20日	やや良	6月下旬から7月上旬の平均気温はやや低く経過したが、開花始は平年より1日早かった。7月中旬は高温多雨で経過し、主茎長および主茎節数は平年並、分枝数は平年を上回っている。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
8月20日	やや不良	7月下旬の日照時間が平年よりも少なく、7月下旬から8月上旬の平均気温は低く経過したため、生育は停滞した。分枝数は平年を上回っているが、主茎長、主茎節数および着莢数は平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
9月20日	やや不良	8月下旬のまとまった降雨の影響で〝中～多〞程度の倒伏が発生している。主茎節数は平年並で、分枝数は平年を上回っているが、主茎長および着莢数は平年を下回っている。 以上のことから、現在の作況はやや不良である。
10月20日	やや良	成熟期は平年より2日早い9月21日であった。着莢数は平年を下回ったが、百粒重は平年並で一莢内粒数は平年を上回ったことから、子実重は平年比108%と多収であった。屑粒率は平年より低かった。 以上のことから、現在の作況はやや良である。
11月20日	**やや良**	播種期は平年より1日早く、出芽期は平年より2日早い5月29日であった。開花始は平年より1日早く、8月下旬のまとまった降雨の影響で“中～多”程度の倒伏が発生した。成熟期は平年より2日早い9月21日であった。着莢数は平年を下回ったが、百粒重は平年並で一莢内粒数は平年を上回ったことから、子実重は平年比108%と多収であった。屑粒率は平年より低く、検査等級は1等で平年を上回った。 以上のことから、本年の作況はやや良である。

生育データ

品種名		ユキホマレ		
項目／年次		本年	平年	比較
播種期(月日)		5.19	5.20	△1
出芽期(月日)		5.29	5.31	△2
出芽率(%)[3]		96.2	89.2	7.0
開花始(月日)		7.11	7.12	△1
成熟期(月日)		9.21	9.23	△2
主茎長(cm)	6月20日	11.6	12.8	△1.2
	7月20日	65.8	67.0	△1.2
	8月20日	65.4	75.3	△9.9
	9月20日	70.4	73.7	△3.3
	成熟期	70.4	73.5	△3.1
主茎節数(節)	6月20日	3.5	3.0	0.5
	7月20日	10.3	10.4	△0.1
	8月20日	9.8	10.8	△1.0
	9月20日	10.6	10.8	△0.2
	成熟期	10.6	10.9	△0.3
分枝数(本/株)	7月20日	6.1	5.1	1.0
	8月20日	6.1	5.1	1.0
	9月20日	6.2	5.1	1.1
	成熟期	6.2	5.1	1.1
着莢数(莢/株)	8月20日	72.4	77.7	△5.3
	9月20日	73.4	78.5	△5.1
	成熟期	73.4	79.0	△5.6
一莢内粒数(粒)		2.06	1.88	0.18
子実重(kg/10a)[4]		445	413	32
百粒重(g)[4]		38.7	38.0	0.7
屑粒率(%)		0.5	4.5	△4.0
品質(検査等級)[5]		1	2中	−
子実重対平年比(%)		108	100	8

備考1) 平年値は，前7か年中，令和7年(豊作年)および令和3年(凶作年)を除く5か年平均である。
2) △は，平年と比較して「早」，「少」，「短」，「軽」，「低」を表す。
3) 間引き直前に調査した値。
4) 水分含量15%に換算した値。
5) 農産物検査による等級。2等・3等は上・中・下に分けた。

耕種概要

一区面積(㎡)	区制	前作物	畦幅(cm)	株間(cm)	1株本数	株数(株/10a)	播種期(月日)	種子処理
16.8	3	ソルガム	60	20	2	8,333	5.19	クルーザーMAXX

施肥量(kg／10a)					
N	P_2O_5	K_2O	MgO	堆肥	その他
1.8	15.0	7.8	3.0	なし	なし